

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 三者評価機関名

公益社団法人 けいしん神奈川

② 施設・事業所情報

名称：上麻生保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：佐治 則子	定員（利用人数）： 90 名
所在地：川崎市麻生区上麻生7-2-35	
TEL：044-988-8520	ホームページ： 川崎市麻生区：上麻生保育園 (city.kawasaki.jp)
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 昭和50年1月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）： 川崎市	
職員数	常勤職員： 22 名 非常勤職員 2 名
専門職員	保育士： 16 名 保育士： 1 名
	看護師： 1 名
	栄養士： 1 名
施設・設備 の概要	（居室数） 6室 （設備等）事務室、給食室、トイレ、 医務室、調乳室、地域支援室

③ 理念・基本方針

<input type="checkbox"/> 保育理念 ・家庭や地域との連携のもとに、子どもの最善の利益を考慮し、養護及び教育を一体的に行う。 ・子どもの健全な心身の発達を図り、生きる力の基礎を育む。
<input type="checkbox"/> 保育基本方針 ・子ども一人ひとりを理解し、主体性を尊重しながら、体系的、計画的に保育の充実を図る。 ・保護者と信頼関係を築き、子どもの育ちを共感し合い、共に学び育ち合う。 ・地域社会と連携をとり、地域の人との交流や地域における子育て支援を行う。 ・保育や子育て支援の質の向上に向けて、保育者としての専門性を高める。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

・柿生の豊かな自然に恵まれ、四季の変化を感じ、散歩や戸外遊びをたくさん楽しむことができます。 ・各年齢の発達に合わせた活動のほか、年間を通して異年齢交流を行い、子どもたちは兄弟のようにほほえましい関わりが見られます。 ・荒馬やムーブメント等、伝承を大切にしたい保育をしています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和2年9月16日（契約日） ～ 令和3年1月29日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（平成26年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

■麻生区の公立保育園として地域支援の交流拠点の役割を担っています。

柿生駅から徒歩13分に立地する公立保育園として主に柿生・上麻生地区の子育て世代支援と多世代との交流事業に数多く取り組み、地域の拠点として定着しています。

地域交流は、麻生区保育総合支援担当と連携しながら経験豊富な保育士、看護師、栄養士の専門性を活かした子育て支援と同時に、園児に地域の社会経験の機会を数多く提供しています。

園舎で行われる地域の子育て支援には「親子でランチ」（食事・保育体験）、「にっこっこ」（父親を含む親子交流）や「あそびの広場」（連続講座など）などがあります。園児がでかけての地域の多世代交流には、高齢者福祉施設での高齢者との交流や地域の大学の保育学生との交流があります。その他、柿生こども文化センターでのあそびの提供や保育相談、麻生スポーツセンターや麻生区役所の子育てフェスタなど麻生区保育総合支援担当とも連携した多様な地域交流事業があります。

■職員のチームワークと連携の良さの更なる強化に取り組んでいます。

経験豊富な人材が中心でしたが、久しぶりに新卒が加わるなど経験と年齢層の幅が広がってきたのを契機に、園長のリーダーシップによって体制のシステム化と報告・連絡・相談の充実に力を入れています。即ち、上からの指示ではなく乳・幼のリーダーを中心にしたクラス別等のリーダーの連携と職員相互の話し合いの密度を高めて臨機応変に課題を解決していく方針が職員に示されました。経験年数や知識に関わりなく意見が出し合える環境がつけられ、各個人が持っていた意見やアイデアを園長が直ぐに取り入れ、全員で取り組んでいく仕組みが職員に共有されるようになりました。

■豊かな自然環境を活かした保育が提供されています。

比較的広い園庭には樹木・植物・花や虫も多く、花壇の整備や草の感触を楽しめるようにいつでも自然に多く触れることができる環境を作り、固定遊具の他にもタイヤやボードを利用した手造り遊具によって自らすすんで身体を動かしたくなるような環境を整備して保育に活かしています。また、園庭ばかりでなく保育園から直ぐの巨大な多目的公園（麻生水処理センター、旧麻生環境センター）はじめ周囲の自然環境は豊かで、子どもの興味に応じて小山を駆けまわり水と戯れることもできる散歩や戸外遊びの時間を多く取り入れています。

園庭、テラスや周囲の自然の中で遊ぶ際に、様々な年齢で自然な関わりを持てるように配慮し、異年齢交流や地域の人々との交流機会が計画的に行われています。

◇改善を求められる点

■上麻生保育園らしい個性・魅力を再評価して未来に継承していくことを期待します。公立保育園として評価項目を網羅的に実行できる力があり、殆どの項目が民間や小規模保育園の参考基準となる水準にあります。

70年代に造成された大規模団地と柿生駅の中間にあり、開設当初は保護者の生活や通勤の圏内にありましたが、45年経過した現在は比較的広範囲から車送迎の来園が多くなり、利用者や地域住民にとっての身近さが薄れていくことが懸念されます。

園児・保護者そして職員は入れ替わっても、今も変わらない豊かな自然環境の地域とともにある上麻生保育園らしさ（個性・魅力）とは何かを再評価し、伝統として継承していくことを期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の第三者評価をうけ、改めてまわりの自然の豊かさを感じるとともに、その特色や環境を活かした保育の継続と工夫の大切さ、そして職員間のチームワークと連携が保育の豊かさにつながってくるということを職員間で確認することができました。今年コロナ禍で保育説明会やクラス懇談会など保護者と対面でじっくりと説明する機会がなかなか持てない環境でした。第三者評価利用者家族アンケートからも保育が見えづらかったという意見があったことを受け、説明会の資料やお便りだけでなく、保護者に保育を理解していただくためにはどんな工夫ができるかを会議で話し合い、書面による懇談会での意見交換や写真掲示で様子を知らせる、個別面談で動画を活用し日頃の姿を知らせる等、各クラスからいろいろな案が出され改善につなげることができました。

今後も公立保育園として子どもの成長発達を第一に、保育園の利用者にとって必要な支援とは何かを考え活動を進めていくとともに、地域の特性をとらえた子育て支援事業や多世代交流の実施など、地域に根差した保育園を目指していきたいと思えます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり